

**テニュアトラック普及・定着事業**  
(実施期間：平成 25～29 年度)

信州大学

機関

(1) 制度設計	(2) 進捗状況	(3) 今後の進め方等	機関の総合評価
a	a	a	A
<p>学長のリーダーシップの下、運営体制の整備を行い、繊維学部、農学部、理学部では全助教をテニュアトラック教員として採用、工学部では従来の人事選考方式とテニュアトラック制を並立、新設の先鋭領域融合研究群においても制度の導入がなされ、テニュアトラック制が未導入の人文学部、経済学部、教育学部、医学部においても関連規定の整備が進んでいる。自主的取組と併せて、積極的なテニュアトラック制の全学への普及・定着が推進されている。</p>			

総合工学系研究科

(1) 制度設計、計画等	(2) 進捗状況	(3) 公募、採用、選考等	(4) 研究者の育成	(5) 今後の進め方	部局の総合評価
a	a	b	a	a	A
<p>「若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業」の経験を踏まえて、関連学部と連携して継続性のあるテニュアトラック制を推進しており、繊維学部、農学部、理学部では全助教をテニュアトラック教員として採用し、工学部では人事の一部に同制度を組み入れている等、それぞれに進捗が見られる。また、運営委員会の設置、複数メンターによる支援等、組織的な進捗管理、テニュアトラック教員の育成体制が確立しており、積極的な制度の普及・定着が行われている。しかしながら一部に公募期間の短い事例があり、また、選考委員会での外部委員の役割が書面審査のみとなっている。十分な公募期間をとること、また、外部委員の選考審査への直接参加について改善が必要である。</p>					

S, s: 優れた取組を進めており、順調に進捗している

A, a: 適切な取組を行っており、概ね順調に進捗している

B, b: 改善を要する点がある

C, c: 重大な問題がある